

小川町訪問記

2019年2月21日(木)埼玉県比企郡小川町(おがわまち)へ向かった。池袋から東武東上線の急行に乗り約70分のところにある。周りを山に囲まれた盆地の中にあり、都心より寒さを感じた。

駅前から数分のところに町役場があり、そのわきの三協織物の石蔵が集合場所、蔵のなかで街の紹介があった。小川町はいまオーガニック野菜の聖地として有名になっているようだ。昔は交通の要所で現在の国道254号線が秩父往還と呼ばれ、秩父方面と江戸を結ぶ通りとなっていた。絹もこの道から八王子へと運ばれた。江戸時代には六斎市(ろくさいいち)という1と6が付く日に市が立ち、物流の拠点として大いに賑わったこの町も、いまはその繁栄を内に秘めた静かな土地になっていた。

石蔵から車で町の南西部にある腰越地区に向かい、山林の木材伐採現場の視察を行なった。そもそも今回何故小川町かというと、今年3月のお江戸深川さくらまつりの開催に合わせて「川床テラス」がオープンする。レストランの川面にテラスをつくり、飲食しながら桜を楽しむという趣向で、この川床に小川町から切り出した材木を使おうというアイデアである。小川町の水は、楳(つき)川、都幾(とき)川、越辺(おつべ)川、入間(いるま)川を経て、荒川、隅田川へと下り、深川にも到達する。このような上流と下流の結びつきをもつ小川町で採れた材木が大横川の川面に置かれるという夢のある計画が実現しようとしている。

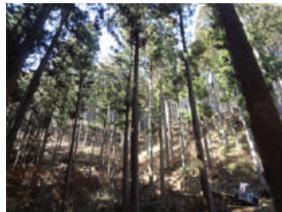
水が豊かなことから、町内には、武蔵鶴酒造、晴雲酒造、松岡酒造の3軒の造り酒屋があり、ユネスコ無形文化遺産に指定された和紙(細川紙)もこの町の特産物で、かつて町中には紙屋さんがたくさんあった。

ランチは旧小川小学校下里分校の校舎でオムライスをサラダと一緒にいただいた。食材はまち自慢の有機野菜を使って作られていた。

食後、石蔵に戻り、グループに分かれてまち歩きをした。我々のグループは親水公園を目指して歩いた。まち歩きの後、街の魅力や問題点についてディスカッションした。そのあとは近くの焼き鳥屋で夕食を取り、数件の古民家に分散して泊まった。花和菜の湯で一風呂浴びて宿泊場所に向かった人もいた。私が泊まった「かたおか」は明治16年に建てられた古民家で太い大黒柱など木材が存分に使われていた。

翌日、皆で地元の食材で朝食をとった後、再びまちなかの石蔵に集合した。今回の一泊二日の小川町訪問は、深川の人々が川床に使われる材木を見に行くというだけでなく、小川町の人々との交流によって、川の上流と下流の人々の結びつきが期待できる。川床の完成を喜ぶとともに、今後の両地区の交流が楽しみである。

(理事 庄司邦昭)



川床伐採現場



旧小川小学校下里分校



三協織物石蔵



深川まで繋がる楳川の親水公園

イベント情報

○水彩サロン春学期「Deepに迫る 多彩なまち 江東」

- 5月12日(日) 14時~16時 「門前仲町の今と昔」講師:大井 哲爾(江東区副区長)
- 6月9日(日) 14時~16時 「砂町の今と昔」講師:久染 健夫(江東区船番所資料館)
- 7月14日(日) 14時~16時 「豊洲の今と昔」講師:渡辺 哲三(豊洲商友会)

- お江戸深川さくらまつり 2019年3月23日(土)~4月7日(日)地下鉄門前仲町駅下車
- リバーフェスタ江東2019 2019年3月24日(日)地下鉄東大島駅下車、旧中川川の駅周辺
- 夜の水彩カフェラス 2019年4月27日(土)地下鉄東大島駅下車、旧中川川の駅周辺
- 江東区の水辺に親しむ会総会 2019年6月16日(日)14時~ 都営白河一丁目アパート1階集会所



みずべ Mizube Vol.34



緑の中の都市 (CITY IN THE GREEN)を目指して

江東区は、平成24年に「江東区CIGビジョン」を策定し、緑の中の都市「CITY IN THE GREEN」の実現を目指しています。

公園、緑地の整備や、河川・運河・海辺の緑化、道路の緑化、公共施設の緑化を進める一方、区民や事業者の皆さんによる民間緑化についても後押しし、緑のまちづくりを積極的に進めています。

民間緑化を後押しする事業のひとつとして、今年度から、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、『2020花と緑のおもてなしガーデニング講座』を実施しています。これは、競技会場に近い豊洲地区の公園の花壇を花と緑で彩り、地域コミュニティの醸成と東京2020大会開催への気運醸成を図るもので、この講座を契機に地域での緑化活動やコミュニティ形成活動を始められることができる人材を育てています。また、9月に「花と緑のおもてなし」として、コンテナガーデンに寄せ植えをするイベントを行い、多くの方に参加いただきました。

また、区民の8割以上の方がマンションにお住まいになっていることから、マンションのベランダ緑化を推奨しています。そのため、多くのマンションのベランダで花や野菜、樹木を育てる楽しみを広げること、緑豊かな美しいまちづくりが進むと考えています。区民の皆さんにベランダ緑化に取組んでいただくため、マンションを対象としたベランダ緑化講習会の開催や区民まつりなどのイベントにおいてベランダで楽しめる寄せ植え講座を行い、CITY IN THE GREENを広める事業

を行っています。これらの事業は、「江東区CIGビジョン」策定当初から、『江東区の水辺に親しむ会』に委託して実施しています。講座を通じて、マンションのベランダ緑化に関心を持っていただいた方もたくさんいらっしゃいます。

その他にも、地域のシンボルや誇りとなるまとまった緑の写真を表彰するフォトコンテスト、一定の基準を満たしていると認められた樹木や樹林に対する維持管理費の助成、生垣や屋上緑化に対する助成等様々な事業を行い、区民の皆さんとの活動を後押ししています。

次世代に、緑あふれる江東区を引き継いでいくために、継続してCITY IN THE GREENを推進していくことが重要だと考えております。今後も、江東区の水辺に親しむ会の皆さんと一緒に、「CITY IN THE GREEN」の実現を目指して行きましょう!

江東区土木部管理課長 石井 康弘



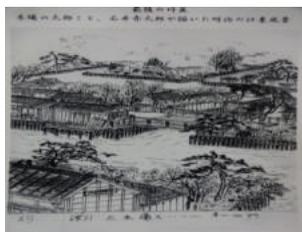
江東区CIGビジョン News Letter

CITY IN THE GREEN(CIG) みんなでつくる緑のまち



CIG普及のための挿し芽教室(“こどもまつり”猿江恩賜公園5月)

江東区は関東大震災、世界大戦での戦災と、次々に壊滅的な打撃を受けました。その後訪れた高度成長期も公害という災禍に見舞われ、緑にとって受難の時代を経た記憶から、区民の皆さんは、自然や緑に対する思い入れを強く持っています。区の事業の一つCIG (CITY IN THE GREEN) 推進事業は、そんな歴史を背景に創設された区の事業です。CIGとは豊かな緑の中の都市をイメージして創られた言葉なのです。“水辺に親しむ会”が受託したのは、その事業の一つ、マンションのベランダ等の緑を増やし、緑視率を向上させ、緑に親しむライフスタイルを定着することを目的として行われています。



水と緑の街、明治期の木場周辺

江東区の協力を得つつモニターとして参加して下さるマンションを探し、ルールやマナーを含め、ベランダ園芸の方法

を提供する講習会の実施、モニター継続者のフォローアップ等を行ってきました。それから6年、参加して下さった一つ一つのマンションと長いお付き合いが出来てきています。

しかしやり始めて見ると、ベランダ緑化に協力して下さるマンションを見つけるのは大変難しいことが分かりました。建物所有者で組織する管理組合が、ベランダは共用部分で避難路にもなっていて、緑が邪魔になる、落下の恐れも無いと言い切れないと難色を示したのです。住民の専用使用を認めていても、トラブルは避けたいというのが組合の意向でした。そこで直接住民の皆さんに呼びかけ、管理組合の了承を取っていただくことにしました。参加して下さるマンションを増やすため、区内の各所で開催された区民まつりや水彩フェスティバルなどのイベントに出展し、寄せ植え教室や挿し芽教室を開催し、CIGの主旨や実施する内容を説明しました。30年度は4軒のマンションが手をあげてくださり、区に問い合わせのあったマンションを含め、計10軒のマンションがベランダ緑化モニターマンションになっていただきました。



事例を基にベランダ緑化の意義や魅力を伝える八木さん(竹中工務店2Fホール11月)

イベント会場で説明して感じていたのは、CIGそのものについて、区民の皆さんが知らないということです。そこでCIGについて、区の事業であること、他区にはない取り組みであること、緑のコミュニティへの効用、フレンドシップグリーンについての説明などを行いました。またその集大成として、講演会も実施しました。講師を勤めた八木波奈子さんは編集者ですが、海外の事例や江東区の実情についてもよくご存じで、CIGについても応援してくださる方です。

テーマは「ベランダ ガーデニングで都市生活が変わる！」です。実際に取材した写真をベースに都市のガーデンは屋上&ベランダから始まった、今もっとも注目される緑の建築、緑のない生活などあるのか？、ガーデンデザイナー吉谷桂子のベランダガーデン、ガーデンスペースがない場合、コンテナだけで楽しむ、江東区の2018年 緑レポート、2018年の市場前とマジーズ東京と、次々にテーマ性に沿った事例を見せられた参加者の皆さんにとって、大変刺激になった様子がアンケートから読み取れました。

区長からのなぜ区がこのような取り組みを始めたかのメッセージの後、須永から普段水辺の会が実施している活動実績を発表しました。ハーブティーとハーブケーキをいただきながらの休憩を挟んだ後はパネルディスカッションです。芝浦工大の志村先生がコーディネーターとなり、基調講演をなさった八木さん、

緑ネットkoto会長の美濃又さん、ベランダ緑化モニターの川瀬さんと五島さん、竹中工務店設計部の向山さん達がそれぞれの視点からお話しくださり、良い意見交換となりました。

参加者のアンケートには、区としてのCIGを初めて知った、江東区が本当に花と緑の街になったら良いなと思った、江東区のまちの資産についての話が興味深かった、江東区の活動自体が良く分かった、江東区が力を入れていることを知り嬉しくなった、江東区がイーストベイとして飛躍するイメージ、江東区が意外と色々やっていることを初めて知ったと書かれ、CIGの告知は成功したと考えています。次年度に向けては、この活動がマンション内や地域に、一層広がるように工夫したいと考えています。

(理事長 須永淑子)



パネルディスカッション